

生命（いのち）を支える“農業土木”

三重大学・生物資源学部・共生環境学科・農業農村工学講座

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

(最寄り駅：近鉄線江戸橋駅(徒歩 15 分), 近鉄線津駅(バス 10 分))

E-mail: kajisa@bio.mie-u.ac.jp (講座主任)

三重大学の農業土木学教育は、1921(大正10)年、新設三重高等農林学校に農業土木学科が設置されたことから始まる。忠犬ハチ公の飼い主であり、近代農業土木学の父といわれる上野英三郎は、この新学科と深い関係があったとされている。以来、約100年、「三重の農業土木」は多くの人材を輩出している。

■三重大学生物資源学部と

共生環境学科

学部は、自然と人間の共存を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求することについて教育理念を掲げている。旧来の農学・水産学はこの一部であると解釈されている。

学科は、多様な生態系でなりたつ地球生命圏の環境、複雑な地球生態システムなどについて教育理念を掲げている。この学科の授業科目は数学的な科目が多く、他の学科と比較した場合の特徴になる。



近鉄久居駅(津市)広場の
上野英三郎とハチ公

(除幕式当時；

2012年10月20日)

2017年春から、共生環境学科は地球環境システム学教育コースと地域環境デザイン学教育コースの2コース体制をとっている。地域環境デザイン学教育コースはさらに農業土木学プログラムと環境デザインプログラムに分かれている。

■農業土木学プログラム

農業土木学プログラムは、農業と農村の未来の姿について教育の理念を掲げ、技術者教育を行っている。当講座教員・当学会会員の多くがこのプログラムで授業を担当している。「農業土木」の4文字については世代によってイメージも異なるが、プログラム名としてはシンプルでわかりやすい。

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/chiiki/noudo/index.html>

■環境デザインプログラム

土壌・植物・大気間の物質循環や微生物活動からなる生態圏に根ざした農の現場や食の地産地消とそれを支える地域の自然エネルギーなどを、分野融合で考えるプログラムである。いくつかの講座の教員がこのプログラムで教育指導にあたり、当講座教員・当学会会員も参画している。

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/~kunio/esp/index.html>

■取得できる資格と主な就職先

農業土木学プログラムの学生について紹介する。インターンシップ経験が主な動機になっているが、学生たちは公務員受験枠に「農業土木職」と書かれているところを多く受験し、国家公務員の総合職から市町村に至るまで多くの合格者を輩出している。民間会社については、技術士補・測量士補などの資格を管理しているということでリクルーターが足を運んでくれる。ピオトープ管理士などの資格取得も学生にとって励みになり、学生たちは学園生活を楽しんでいる。